

2024 年度 個人研究実績・成果報告書

2025 年 4 月 12 日

所属	会計ファイナンス 研究科	職名	専任講師	氏 名	寺嶋 康二
研究課題	経営者の心理的特性が財務報告に及ぼす影響に関する包括的研究				
研究キーワード	自信過剰、財務報告、企 業行動、業績予想、利益 調整、資本調整	当年度計画に対す る達成度		2.順調に研究が進展しており、期待どおり の成果が達成できた	
関連する SDGs項目	8. 働きがいも経済成長 も	9. 産業と技術革新の基 盤をつくろう	該当なし		該当なし

1. 研究成果の概要

2024 年度は前年から引き続き経営者の心理的特性が財務報告に及ぼす影響の研究を進め、査読付き論文一本の採択と SSRN ヘワーキングペーパーの公表を行った。

査読付き論文「経営者の自信と自己株式の取得」では、経営者が有する自己または自社の将来業績に対する「自信過剰」が、自己株式取得の意思決定に及ぼす影響について、日本における実証的証拠を示した。検証の結果、第1に、全体として、自信過剰な経営者によって経営される企業ほど、自己株式の取得は実施されない傾向にあること、第2に、配当と自己株式取得の代替性が弱い企業の場合のみ、上記の傾向が観察されることが示された。以上の結果から、経営者の心理的特性（自信過剰）が特定の資本政策に及ぼす影響は、国・制度的環境の相違に応じて必ずしも同一にならないことが指摘でき、国際的な証拠の蓄積に本稿は貢献しているといえる。

ワーキングペーパー” Degree of Managerial Confidence and Discretionary Expense Adjustments”では、経営者の自信が裁量的利益調整、特に裁量的費用の調整に与える影響を検証した。その結果は以下の通りである。第一に、経営者が自信過剰な企業は、そうでない企業に比べて、R&D 支出および異常裁量的費用が大きい。第二に、損失をわずかに回避した企業では、経営者が自信過剰であるほど、裁量的 R&D 支出および異常裁量的費用が小さい。また、損失をわずかに回避した企業は利益が減少し、ROE が 5%をわずかに上回る企業では、裁量的 R&D 支出が少ないという弱い結果も観察された。これらの結果は、利益調整のインセンティブが高い状況では、目標利益が投資よりも優先されることを示唆している。第三に、これらの実体的利益調整行動は、会計的利益調整と同時に行われていることがわかった。

2. 著書・論文・学会発表等

（できるだけご記入ください。査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）

【論文（査読あり）】

「経営者の自信と自己株式の取得」寺嶋康二、塚原慎、積惟美（共著、査読あり）、『経営分析研究』第 38 巻第 1 号、近刊（掲載確定）。

【著書・論文（査読なし）】

“Degree of Managerial Confidence and Discretionary Expense Adjustments.” Koreyoshi Seki, Makoto Tsukahara, Kouji Terashima, SSRN, 1-24, 2025/03.

【学会発表等】

なし。

3. 主な経費

関連文献の購入費として雑誌購読費及び書籍代を計上したほか、所属している学会の年会費や大会参加費、共同研究のための資料共有目的で利用する **Dropbox** 利用料、先行研究等文献管理ツールとして **Paperpile** 利用料、及び英語論文の迅速な概要把握を目的として **ChatGPT Plus** を利用するため、その利用料を計上した。また、年度中に共同研究上 **Mac** 端末の必要性が生じたため、**2025** 年度へ研究費の一部繰越を行った。

4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

日本学術振興会、科学研究費 基盤研究(C)、課題名「経営者の心理的特性が財務報告に及ぼす影響に関する包括的研究」、課題番号 22K01814、研究者 寺嶋康二、塚原慎、積惟美（共同研究）、研究期間 **2022** 年 4 月 - **2025** 年 3 月。

（本文は 2 ページ以内 にまとめること）